

## 第27回 日本動物児童文学賞の受賞者及び入賞作品

第27回日本動物児童文学賞には、93作品の応募があり、児童文学関係学識経験者（井上こみち(作家)）による第1次審査を経て、動物福祉・愛護関係学識経験者（木村芳之（日本獣医師会理事(動物福祉・愛護部会長)）、内山 晶（日本動物愛護協会常任理事兼事務局長）、齋藤 勝（日本動物福祉協会副理事長、元 恩賜上野動物園園長）、椎野雅博（日本愛玩動物協会副会長）、須田沖夫（家庭動物愛護協会会長）や関係省庁関係者（則久雅司（環境省自然環境局総務課動物愛護管理室長）、清原洋一（文部科学省初等中等教育局主任視学官））等からなる第2次審査委員会を7月28日に開催し、下記のとおり入賞作品として、大賞1作品、優秀賞2作品、奨励賞5作品が選定された（表彰式の模様は685頁参照）。

### 入 賞 作 品

#### 【日本動物児童文学大賞】

##### 「アザラシ物語」 矢代 稔（神奈川県）

〈受賞理由〉 アザラシの子どもの救護を通じて、自然との付き合い方、救護施設の状況、野生動物による漁業被害、動物保護に係る自治体の財政事情、野生復帰に伴う課題まで幅広く伝わるように記されている。主人公の心情もわかりやすく書けており、動物を大切にしたいというテーマが、あまり押しつけがましくなく、自然に感じられる。

#### 【日本動物児童文学優秀賞】

##### 「家族になってくれてありがとう」 山岡ヒロミ（愛媛県）

〈受賞理由〉 ゾウの生態、厳しい生息環境が子どもにわかりやすく紹介されている。動物園での繁殖、飼育係の情熱ある活躍の描写も良い。孤児になったゾウの運命を通して、野生動物との関わり、自然破壊への警鐘等、児童に伝えたい内容になっている。

##### 「よわむしくんの決意」 江馬則子（奈良県）

〈受賞理由〉 犬や猫など動物が苦手な少年が、少しずつ慣れて成長していく過程がよく描かれている。動物を飼うことの責任もうまく表現している。

#### 【日本動物児童文学奨励賞】

##### 「いのち ひきついで」 金井つね子（長野県）

〈受賞理由〉 かつての田園地域における、養蚕農家の生活を通じて、人も動植物の命をいただいて、命をつないでいることをわかりやすい文章で表現している。

##### 「ユーカリの森」 さいとうまどか（愛知県）

〈受賞理由〉 少年の冬休み体験における山火事を通じ、動物と人との関わり、少年同士の交流、オーストラリアの自然の紹介、少年の動物を思う心等について、情景が目につかぶようにうまく書かれている。

##### 「おばあちゃんの手押し車」 森 溪介（群馬県）

〈受賞理由〉 少女と捨て猫を通して飼育責任を考えさせる作品であるが、独居の高齢者の動物飼育による生き甲斐、高齢者による動物飼育に伴う問題も提起している。ハッピーエンドの物語に読者である子どもたちはほっとするであろう。読みやすく、温かさが伝わる優しい作品である。

##### 「ひよこさんの願い」 福永智彦（広島県）

〈受賞理由〉 保護された犬の気持ちになって書かれているが、作者の動物に対する優しさ、温かさが感じられる。子どもたちにいろいろと考えさせることのできる作品である。

##### 「リョウダンス・ペラヘラ」 柳澤みの里（東京都）

〈受賞理由〉 スリランカの情景や人とゾウの関係を日本人旅行者の子どもの視点で描いている。子どもがゾウとの空想の世界に入るといふ物語展開は意外性もあり、面白い。とても文章がうまく、ぐいぐい読ませてくれる。ゾウの孤児院を通して、野生動物との接し方、環境問題等、深く考えさせられる作品である。

なお、入賞作品のうち大賞、優秀賞作品を収載した「第27回日本動物児童文学賞受賞作品集」をご希望の方（1人1冊に限る）は、住所、氏名、電話番号、上記作品集希望と明記の上、切手400円分（送料）を同封し、下記送付先へお送りください。



〒107-0062

東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館23階  
公益社団法人 日本獣医師会 事務局

「第27回日本動物児童文学賞受賞作品集」希望

お問合せ：TEL 03-3475-1695 FAX 03-3475-1697

E-mail : hokankyo@nichiju.or.jp